

【海外拠点】山口銀行釜山支店、山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所  
【現地駐在】TMB銀行(タイ・バンコク)、日本政策金融公庫バンコク駐在員事務所(タイ・バンコク)  
HD銀行(ベトナム・ホーチミン)、AGS JOINT STOCK COMPANY (ベトナム・ホーチミン)



## 【青島支店】

### 中国のペット事情

#### 1. はじめに

中国のペット事情と聞いて皆さんは何を想像されるでしょうか。新型コロナウイルスによりペットの放棄が問題になったことや、昔の中国ではペットの飼育が贅沢だとして禁止されていたことなどをご存知の方もいらっしゃるかもしれません。現在の中国ではゴールデンレトリバーのような大型犬からトイプードルなどの小型犬まで多種多様な犬を街中で目にします。今回のアジアニュースでは、最新の中国ペット事情についてご紹介します。

#### 2. ペット業界の概論

中国のペット関連サイト「狗民網」が発表した「2019年中国ペット業界白書」によると、2019年の中国都市部におけるペット(犬・猫)関連の市場規模は推定3兆円を超え、2018年から約18.5%増加しています。日本のペット関連市場規模が約1兆5,700億円(前年比1.7%増)と言われていることを考えれば中国の市場規模の大きさ、成長スピードがよく分かります。中国の犬・猫飼育数は都市部だけで約1億匹(犬5,500万匹、猫4,500万匹)に達し、統計が取れない農村部等を含めれば飼育数は更に多くなると見られ、米国を抜いて世界首位になったとも言われています。

ペットを飼育する世帯が多い都市は北京、上海、広州、成都など経済発展が進んだ地域が中心です。飼育者は20代後半から30代前半の若者が過半数を占め、独身者や女性が比較的多いという点が特徴です。ペット数の増加は中国の経済成長に伴う所得増加や一人っ子政策時に生まれた子供の友達代わり、高齢者に寄り添うパートナーという視点に加え、ペットが都会のストレスや寂しさにさいなまれる若者を癒す役割を担っているという背景があるのかもしれません。

中国も日本と同様にSNSの影響力が強く、中国の「KOL(Key Opinion Leaders)」や「網紅(ワンホン)」と呼ばれるインフルエンサーが投稿した可愛いペットとの写真や動画を見て、若者がペットショップに走るというケースも少なくないと想像できるでしょう。中国SNS「微博(ウェイボー)」でのフォロワー数が4,000万人(2020年6月現在)を超える、まさに桁違いの人気を誇るペット系インフルエンサーも現れています。

### 3. 中国のペットフード市場

ペットフードはペット産業で最大の市場であり、競争が最も激しい分野の一つです。中国の市場分析機関である前瞻産業研究院の調査によると、中国ペットフード業界では MARS（「シーザー」などのブランドを手掛ける米国企業）がトップシェアで約 25%、ロイヤルカナン（フランス）、ネスレ（スイス）と続き、上位 3 社が業界シェアの 3 分の 2 を占めています。煙台中寵食品（中国）などの地場企業も参入していますが、欧米メーカーの牙城を崩すまでには至っていません。地場企業が中国の飼い主たちの信頼を獲得するまでには少し時間がかかるのかもしれませんが、市場の拡大を好機と見て多くの海外企業が中国市場に参入しています。

ペットフードは淘宝网（タオバオ）や京東（ジンドン）など中国で有名な EC サイトでも取り扱われており、日本企業の商品も人気が高くなっています。日本の大手ペットフードメーカーとして、ユニチャーム株式会社（ペットケア事業）、いなばペットフード株式会社、ドギーマンハヤシ株式会社、ペットライン株式会社などがありますが、日本でもテレビ CM でお馴染みの「CIAO ちゅ〜る」（いなばペットフード）や「ドギーマン」（ドギーマンハヤシ）等の商品も中国の EC サイトに掲載され、豊富なラインナップが揃っています。

ペットフード以外のサービスも需要は旺盛であり、動物の預かりサービスや医療、保険、遠隔モニタリングなどの市場も拡大しています。中国発のペット医療プラットフォーム「愛寵医生」は動物病院やペットの病気など多様な情報をアプリで入手でき、利用者は簡単な病気の症状・応急処置、近隣の動物病院などを手軽に検索することができます。中国の IT の発展は凄まじく、スマホ 1 台でほとんど全ての生活サービスを完結できてしまうインフラが整いつつあります。



撮影：青島支店行員（中国のペットフード売り場）

### 4. 犬食と新型コロナウイルスによる影響

中国では「羊頭狗肉（店先に羊の頭を掲げ、実際には犬の肉を販売する）」という言葉が南宋時代（西暦 1200 年前後）の書物に書かれるなど古くから犬の肉を食べる（犬食）文化があったようです。現在でも犬食の習慣が残る地域も一部ありますが、牧羊犬と家族のように接してきた遊牧民を筆頭に犬食の習慣がない地域が多く、ペットとして愛玩の対象となった昨今では犬食を忌み嫌う人の方が多いと言われています。

新型コロナウイルスは野生動物の市場から広まった恐れがあるとして中国の野生動物の取り扱いに対し国際的に批判が高まっており、犬食文化も見直す動きが広がっています。2020年2月に全国人民代表大会（日本の国会に当たる国家最高権力機関）において野生動物の食用禁止が決定され、4月には中国当局（中国農業農村部）が犬を家畜（食べる対象）と見なすべきでない、とする公式見解を示しています。自治体単位でも見直しが図られており、深圳市では2020年5月に野生動物や犬・猫の食用禁止を定めた新条例が施行され、違反した場合には罰金を科すとしています。広西チワン族自治区の犬肉祭りも中国国内で非難の声が高まっているとのこと。食文化の取り扱いについて様々な意見はありますが、犬や猫との向き合い方が従来とは一線を画し、信頼すべきパートナーとして新しい時代を迎えていることは間違いないでしょう。

## 5. おわりに

日本のペット関連市場は既に飽和状態にあり、人口減少などを理由に今後も市場縮小は避けられない状況にあります。カントリーリスクを含みながらも他国を上回る成長を続ける中国市場は無視できない存在であり、中国の新商品や新技術は日本人々の生活もより豊かなものにし、一方で反面教師として役立つこともあるかもしれません。変化と進化に富んだ「今の中国」を見つめることは、現在の日本社会の閉塞感を打破するヒントとなる可能性を秘めていると言えるでしょう。

山口フィナンシャルグループは中国をはじめとする海外への事業参入を検討されている方々のお手伝いを行っております。預金や融資、外為のお取引のみならず、「商品を試しに売ってみたい・買ってみたい」「中国で商売をしてみたいけど、どこにどう相談すればいいかわからない」など考えていらっしゃる方はまずはお気軽にお取引のある支店にお問い合わせください。海外戦略部や現地の私どもが協力してサポートさせていただきます。

（山口銀行青島支店 徳永 圭亮）

### 【参考文献】

狗民网「2019年中国ペット業界白書」

<http://hardoly.com/pbr/Report/869.html>

Nielsen・京東「2019中国ペット消費趨勢報告」

<http://www.199it.com/archives/969439.html>

前瞻网「2019年中国ペットフード業界の現状及び今後の展望分析」

<https://xw.qianzhan.com/report/detail/300/191213-0e46d1fa.html>

网易新聞「愛龍医生」

[https://c.m.163.com/news/a/EV3FQ2V10530JPJ4.html?referFrom=163&spss=adap\\_dy#adaptation=pc](https://c.m.163.com/news/a/EV3FQ2V10530JPJ4.html?referFrom=163&spss=adap_dy#adaptation=pc)

東方新報「犬は人類のパートナー、中国政府が「食用動物」から除外 賛否両論も」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/15b146fa0e2695c44748fcd403614a8881999d99>